

2018 SGH通信

【2年生配布用】

No.13 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

SGH学年（プレゼン）発表会に向けての日程・内容

2年間の集大成ともいえる「日本語論文」が完成し、その概要をプレゼンテーションとして発表してもらいます。12月12日（水）の学年発表会に向けた今後のスケジュールを記します。

プレゼン発表の1人の持ち時間は10分（発表7分・質疑応答3分）です。

	「課題研究2」実施日時	学 習 内 容	実施場所等
A	10月 31日(水) 1時間 済	■論文提出日 ■プレゼン作成開始	PC室使用（クラス単位）
	11月 7日(水) 2時間	■各自、フォーマットに従ってPPTの作成①	PC室使用（クラス単位）
B	11月 14日(水) 2時間	■各自、フォーマットに従ってPPTの作成②	PC室使用（クラス単位）
		■各自、次週の発表に向けた原稿作成及び練習	PC室使用（クラス単位）
	11月 21日(水) 11月 22日(木) 2時間	■（20分間）各自準備 ■（80分間）ゼミグループ単位での発表会 →生徒によるルーブリック評価 →各ゼミグループの代表者の選出	PC室使用（ゼミ単位） 2クラスずつ
C	12月 5日(水) 2時間	■（100分間）各ゼミ代表者による領域別発表会 →12月12日(水)の発表者の選出 （パワポ8名、ポスター40名）	PC室等（8会場で実施） 5・6限目
D	12月 5日(水) 放課後	■学年発表会での発表者8名への特別指導 （2時間） 講師 京都造形芸術大学 吉田大作 先生 目的 12月12日(水)発表者への個別指導	PC室使用
E	12月 12日(水) 2時間	5・6限目＝理系クラス ★優秀者は後日発表し、表彰を行う。	中川ふれあいセンター

A “プレゼンの鬼” 吉田大作先生からのお言葉

「発表」という形式に目を向けるのではなく、「終わったあとに、聴衆に何を一番気付かせたいのか。何を一番残したいのか。どういう気持ちになってほしいのか」という「狙い（着地点）」を明確にすることがプレゼンテーションでは重要になることを皆さんで共有化しましょう。

すると、

1. 自分の持っている情報（カード）の何を、どのような順番で伝えれば良いのかを検討する。

平成26年度文部科学省指定スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

2. その過程で、自分の情報収集が十分か、内容を自分が十分理解できているかが明らかになる。
3. 自分が理解していることと、それを伝えたい人との間にある理解度の差を想像し、相手の思考を想像しながら組み立てをする。

という要素が自然と形成されていきます。

これができると、「論理的思考力・探究力・コミュニケーション力」など、これから本当に必要な力が「プレゼンテーション」を契機に形成されると私は考えています。

B

【第一次選考】

11月21日（水）は、PC室において各ゼミから1名の代表者を選出します。評価者はゼミの皆さんです。ルーブリック評価によって選考しますので、PPTの作成時から評価項目を意識してくださいね。



C

【第二次選考】

12月5日（水）は、ゼミ代表者による領域ごとの発表会となります。ゼミ室・PC室など特別教室棟の各教室に分かれて、合計8名のプレゼン発表者と40名のポスター発表者を選抜します。こちらも皆さんが評価者となります。領域担当の先生の評価も加味して代表者を決定します。

D

【吉田先生からの個別レッスン】

12月5日の放課後、京都から吉田先生に再びご来校いただき、12日（水）の学年発表会でのプレゼン発表者8名に対する特別指導をしていただきます。全国的に評価されている指導者の直接指導を仰げるビッグチャンスです。是非、8名の枠を目指して頑張りましょう！ なお、希望者には当日参観を可とします。



E

【学年発表会】

12月12日（水）は、「SGH2年学年発表会」を開催します。発表者に選ばれた皆さんは、2年間の学習成果を「相手（聴き手）の気持ちを考えながら」精一杯プレゼンしてください。一方、聴き手（評価者）の皆さんは、質問できるような聞き方で自らの成長を図ってください。プレゼン発表後に共感が生まれることと、活発なやり取りが展開されることを期待しています。